

学生支援GP連携・防災シンポジウム いのち・つなぐ・ちから：大学発！ 過去の地震災害から学び、 地域の防災力を高めよう！

議論

工学院大学建築学科 久田嘉章

首都圏も近い将来、危ないと言われるけど・・・

・30年間の発生確率70% → どうもピンと来ない

プレート間地震(東京湾北部地震)、M7.3の震度分布



内閣府資料より	東京湾北部地震
30年以内の発生確率	70%
全壊住家(震動等)	195,000棟
全壊住家(津波)	—
全焼住家(火災)	650,000棟
死者	11,000人(18時)
上水道(1日後)	1,100万人(26%)
ガス(1週後)	120万軒(12%)
電気(直後)	160万軒(6%)
通信(直後)	110万軒(5%)
直接被害金額(復旧)	67兆円
間接被害金額(生産)	45兆円

「うちのビルは新しいし、防災センターもあるし、毎年避難訓練やってるし・・・、たぶん大丈夫・・・」

1995年阪神淡路大震災では・・・



阪神大震災写真20選(左上) http://web.kyoto-inet.or.jp/org/gakugei/kobe/photo20.htm#01phot_h

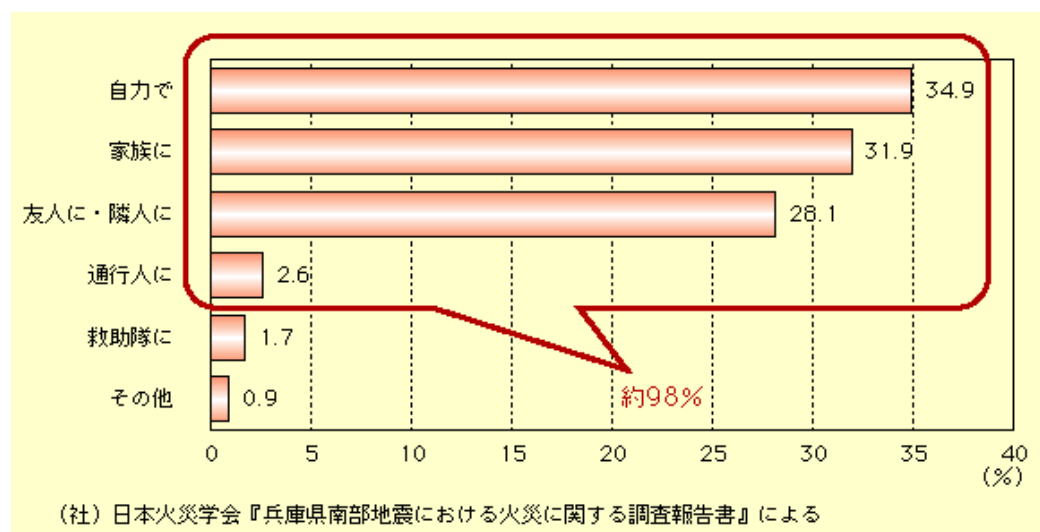


道路寸断・ライフライン途絶・大渋滞・・・

- ・数十万単位の災害が同時多発、都市機能停止
- ・火災: 285件
- ・死者: 6,432名 (約9割は建物倒壊)
- ・負傷者: 43,792名 ・建物被害: 512,882棟

3

1995年阪神淡路大震災 人命救助をした人の内訳例



- ・大規模震災→公助から**自助・共助**へ(消火・救援救護・・・)
(救援活動で人手が足りず、助かる命も失われたケースも)
- ・各自の危機管理・災害対応能力(自助)、地域協働(共助)

高層ビルでは・・・(火災と震災は全く異なる)

PHFL
RFL
9FL
7FL
5FL
3FL
1FL
BFL

非常電話輻輳

7弱家(軽)

建物・設備被害

2~7F 6強

6弱家具の転壁ひびき(軽症者あり)

1~BF

傷病者発生

閉じ込め発生

防災センターは麻痺状態

地域は大混乱・治安悪化

工学院大学における地震防災活動の取組み

- ・ **学生教育**: 学生支援GP:いのち・つなぐ・ちから-学生連携型地域防災拠点の構築-
- ・ **社会人教育**: 新規学習ニーズ対応プログラム: 首都直下地震に備える施設管理者への減災対策および復旧復興マネジメント教育プログラム
- ・ **研究**: プロジェクト名: 地震防災および環境共生に関する新技術の応用に関する研究」など
- ・ **地域防災拠点**: 新宿区西口地域現地本部(新宿区)、広域避難場所(八王子市)、学生ボランティア活動協定(予定)
- ・ **防災活動・訓練**: 新宿駅周辺滞留者対策訓練、新宿・八王子キャンパス防災訓練、新宿区東戸山地域・八王子市中野地域での住民防災訓練、東京都北区・愛知県豊橋市における発災対応型防災訓練
- ・ **大学間連携**: 神戸学院大学、神戸女子大学・神戸女子短期大学、大妻女子大学、兵庫医療大学、および、東北福祉大学との協定

主な論点

- **都心部において地震防災対策で行うべきこと**

→ 予防的対策、初動対応、復旧・復興、共助など

- **大学が地域防災力の向上に寄与できること**

→ 研究・教育、人材、建物・施設・機材、防災拠点など

→ **震災経験から**: 伊藤先生

公助の立場から: 木原さん、赤木さん、藤林さん

自助・共助の立場から: 行岡先生、前林先生、丸谷先生、村上先生

工学院大学から: 三浦学長、水野副学長(次期学長)、長澤(次期副学長)、吉田・木村常務理事、佐藤学生部長など